

授業科目名 <英訳>		臨床実践指導学実習 Practice to Educational Training of Clinical Psychology				担当者所属・職名・氏名		教育学研究科 教授 桑原 知子 教育学研究科 教授 皆藤 章 教育学研究科 教授 岡野 憲一郎 こころの未来研究センター 教授 河合 俊雄 教育学研究科 准教授 高橋 靖恵 教育学研究科 准教授 松下 姫歌 人文科学研究所 准教授 立木 康介			
配当学年	博士	単位数	2	開講年度・開講期	2017・通年	曜時限	月5,6	授業形態	実習	使用言語	日本語
共用科目											
[授業の概要・目的]											
1．心理臨床面接をおこなううえで必要な考え方、具体的な知識、姿勢などについて、これまでの各自の実践と関連させて実習をおこなう。また、それをもとに臨床実践指導のあり方について考察する。 2．臨床心理学の初学者に実習的な事項を実践指導する上での必要な考え方、具体的な知識や姿勢について学ぶ。 3．実践事例を研究としてまとめていく際の問題点なども検討し、指導者としての総合力を向上させていく											
[到達目標]											
上記1から3の目的に沿って、参加者自身の指導体験を振り返り、自身の研究論文作成にも反映できるように考察を進める。											
[授業計画と内容]											
この授業の参加者は、実際にクライアントを担当して心理療法をおこなう。また、担当事例についてカンファレンス等で報告し検討した体験をもとに、グループでの議論等を通して、臨床実践指導の方法について検討をおこなう。学部学生をはじめとする臨床心理学の初学者に、心理療法・心理査定などの実習的な事項について実際に指導をおこない、そこでの体験をもとに、やはりグループで臨床実践指導のあり方について考察する。 第1回は、オリエンテーション 第2回～15回は、参加者の発表に基づき討議を行う											
[履修要件]											
本授業は、心理臨床学 / 臨床実践指導学 / 臨床心理実践学のすべての授業と密接に関連するので、それらの授業を受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
【評価方法】 上記の目的1から3までを鑑みて、実習へのコミットメントおよびレポートを評価する。 【評価の観点】 本演習は、学年進行に従っても指導力の発展性が期待できるため、一様の観点ではなく、年間通して独自の観点から、総合的に評価を行う											
----- 臨床実践指導学実習(2)へ続く -----											

臨床実践指導学実習(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

常日頃の臨床実践活動における振り返りと今後の発展について、検討を重ねていくこと

(その他(オフィスアワー等))

『便覧』オフィスアワーの欄を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。